

<事業所全体による自己評価> R1.11.09実施

challenge&jump

項目	選択した理由	現状分析	解決目標	解決方法	期限	経過 令和2年11月時点
利用児童や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、利用児童や保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応していますか	アンケートの中で保護者からの要望があったため全体で話し合うべき項目だと考えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEでの連絡があっても対応が不十分であった ・jumpは兼任やパート職員が多く、全員そろっての会議が持ちにくく、伝達事項の周知が行えない。 	療育の目的や活動内容を理解してもらえるようにスケジュールを早く提示する	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで情報を共有するために、連絡や周知を怠らない ・週1回は必ず話し合いをする時間を設ける 	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEでの連絡はその日のうちに返答。週1回の会議を開催し、会議録を回覧し、チェック欄を設ける。 ・スタートミーティング時、今週の児童の様子、連絡事項を繰り返し伝達を行えた。 ・苦情を受けた職員は迅速に責任者に報告しコロナ等を含めた苦情対応は責任者が行った。
父母の会の活動の支援や保護者会等の開催により保護者同士の連絡が支援されていますか	就労や進学に向けての保護者同士の連携が必要と感じている為	<ul style="list-style-type: none"> ・jumpでは開催したものの周知が遅かったり急な欠席だったり参加者が少なかった。 ・Challengeでは兄弟児の出校日と重なったりして思ったより少なかった。 ・早い周知、スケジュール等の把握などが必要だった。 ・保護者の要望としては小学生のころから友達同士又は保護者同士の交流を増やしてほしい。中高生は就労や進学についての情報を知りたいと希望されている。 	就労や進学に向けての保護者会や勉強会を開催し連携を啓発していく	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく告知を早めに行い、テーマにあった勉強会や保護者交流会を計画していく ・みんなが受け入れやすいテーマを提示していく ・年間スケジュールを年度始めに出す 	1年	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めは講義依頼。2か月前からの保護者連絡。10月に就労移行支援事業所の勉強会を開催。卒業生の保護者からの話をおこなった。6組の家族、2名の高校生が参加。 保護者からは進路の選択肢や可能性が広がり、満足度は高かった。 講義者からは中学生も対象としたほうがいいという意見が出た。
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか	必要性を強く感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・いちばん星としてのマニュアルはあるが、保護者向けのマニュアルはない。 ・子どもを含めた地震避難訓練は行った。 ・非常食を食べる経験ができたのは良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が分かりやすいマニュアルの作成 ・各災害時の避難訓練を子どもを入れて行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に保護者が手に取れる場所にマニュアルを用意する ・子どもを入れての避難訓練を計画するとともに保護者への緊急連絡を確認する 	1年	<ul style="list-style-type: none"> 9月にいちばん星職員全体での風水害避難訓練を実施。 連絡LINE,保護者連絡の確認、非常用品の確認をおこなった。 10月に全グループで火災避難訓練を実施。職員の役割分担、避難経路、避難体験、公民館確認をおこなった。